

戦争と平和

世界では、戦争や紛争が各地で起こっています。戦争を経験した日本に生まれた私たちに何ができるでしょうか。ささやかな事が平和につながっていて、だれかを助けるきっかけになるかもしれません。そこで、今回は、戦争と平和をテーマにした本を選びました。

紹介した本は、新座市の中央図書館、福祉の里図書館、公民館図書室等の分館で借りられます。皆さんどうぞ読んでみてください。

2022.11 NO.7

新座市立中央図書館

〒352-0011 新座市野火止 1-1-2

☎048(481)1115

図書館 HP



モバイル



作成館:福祉の里図書館 / 〒352-0013 新座市新塚 1-4-5 / ☎048(481)7070

しあわせなときの地図



フラン・ヌニョ/文 ズザンナ・セレイ/絵 宇野和美/訳 ほるぶ出版(Eセ)

戦争のせいで、生まれてからずっと暮らしてきた町を離れなければならないって
しまったソエ。ソエは町を離れる前の晩、机に町の地図を広げ、楽しいことがあった
場所にしるしをつけていきました。自分の家、学校、公園のブランコなど思い出のある
いろいろな場所にしるしをつけ、そのしるしをつなげていくと現れた形は…。

戦争に直接触れているわけではありませんが、平和な生活を送ることができること
に幸せを感じられる切なくも優しい絵本です。

故郷の味は海をこえて



安田奈津紀/著・写真 ポプラ社 (360ヤ)

なぜ、難民として日本へやって来たかということが、食を通して描かれています。
日本へ逃れてきても、思い出のつまった故郷の味を決して忘れることはありません。
食卓には母国の料理が並び、懐かしさを感じることができます。カフェや
レストランを構え、故郷の自慢の味をふるまってくれる人もいます。これらの
素敵な食文化が紛争や暴力によりおびやかされることはあってはなりません。
難民の事について書かれているコラムもあり、カラー写真が多く読みやすい一冊です。

戦争といのちと聖路加国際病院ものがたり

日野原重明/著 小学館 (916 ヒ)



「戦争とは命と尊厳を奪い合うおろかな行為である。」105歳で亡くなった日野原重明先生の言葉です。日野原先生は、太平洋戦争が始まった年に聖路加国際病院に就職しました。高い志と、互いを思いやる心を忘れない事で、辛い戦争を乗り越えることが出来たのだと話されています。本当はいけない事だとわかっていても強い権力者に逆らえない状況はいじめと似ています。皆が他人の事を配慮できる思いやりの心を持った人になってほしいと願っています。

戦争と平和の船、ナッチャン

半田滋/著 講談社 (550 ハ)



この本は表紙に描かれている「ナッチャンワールド」という名前の実在の高速フェリーを主人公に書かれています。ナッチャンワールドは青森と函館を結ぶ観光船でしたが、燃料の値上がりにより定期運航ができなくなります。病院船になることを夢見たナッチャンワールドでしたが、その後、なぜ自衛隊の戦車を運ぶことになったのか、今どんな気持ちでいるのか、ノンフィクションを元にした物語を、ぜひ一度読んでみて下さい。

トンネルの森 1945

角野栄子/著 KADOKAWA (Y913 カ)



1945年、5歳のときにお母さんを亡くしたイコ。大好きなおばあちゃんやお父さんと離れ、「ママ母」の光子と生まれたばかりの弟ヒロシと3人で疎開します。慣れない田舎での暮らし、家での孤独な日々が続きます。ある日、家の近くの森に脱走兵が潜んでいると聞きます。最初はこわかった森のトンネルも、不思議な出来事が起きるにつれ、成長していくイコ。戦争中に我慢を強いられながら、精一杯生きる人々を描いた作品です。

世界を平和にするためのささやかな提案

池澤春奈 伊勢崎賢治 他/著 河出書房新社 (310 セ)



世界・国家は「偉い人」だけのものではありません。住まう皆の共有財産です。「平和に向けて声を挙げる」。どこか他人事にしてしまいそうですが、誰でも不可能ではありません。視野を拡げる・狭める。視点を変える。何故？どうして？を追求する。様々なフィールドで活躍する22人「ささやかな提案」を読んで、自分でも出来るアプローチ、アクションを考えてみませんか？